

## アスパラガス収穫終了後の管理について

9月に入ってから夏は猛暑も和らぎ、大分過ごしやすい季節となりました。合わせて、秋冬作の定植時期、また、今回紹介するアスパラガスでも翌年の管理に向けた重要な時期となりますが、線状降水帯による集中豪雨や台風の襲来など気象災害の発生に対して予防対策と事後対応が必要になります。

近年は異常気象が常態化しつつありますが、まずは自身の安全を確保したうえで対応に臨んでいただくようお願いいたします。

### (1) アスパラガスの春芽について

アスパラガスの春芽は前年に蓄積された養分で出てくると言われており、春芽増収のためには前年秋口の生育状況（秋以降の光合成生産をいかに維持するか）が大きく影響してきます。

つまり、令和5年産アスパラガスも収穫終盤となり一息つきたいところですが、春芽に向けてこれから重要な時期を迎えることになります。

今回は今後の施肥管理技術などについて紹介します。

### (2) 全刈りまで健全株の維持（病害虫防除の継続）

#### ① 薬剤散布の継続

現在は病害の発生が見られなくても気温が下がってきて発病適温になり、台風や秋雨が重なると病害が発生・拡大することがあります。予防防除は全刈りまで継続するようにしましょう。

また、アスパラガスは茎葉が繁茂しやすい作物です。状況に応じて噴口を選択し、散布のやり方を工夫する必要があります。

#### 防除噴口の種類例

##### ・ディスクノズル（霧タイプ）

表面はムラなく散布しやすいが、表面をなぞるように散布しないと群落内部まで薬液が届きにくい。

##### ・キリナシノズル（ドリフト軽減タイプ）

茎葉繁茂の多少に関わらず群落内部まで薬液が届きやすいが、表面は散布ムラが生じやすい。

また、周囲への伝染源になるので病害が発生した茎葉は速やかに除去することや病害虫の発生源となる周辺雑草対策も合わせて行うことが重要です。

### (3) 秋口の追肥の実施

以前は、夏芽収穫終了後は黄化が遅くなるという考えから施肥を行わないことが一般的でしたが、夏芽終了後の追肥で翌年春芽の増収効果が明らかになりました。

【成果情報名】半促成長期どりアスパラガス春芽に対する秋期窒素追肥の効果（2009～2010年）

農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

No	試験区名	NPK追肥日および施肥量						対慣行 増肥量
		10月15日	11月1日	11月15日	12月1日	12月15日	12月31日	
1	12月31日追肥終了区	3	3	3	3	3	3	18
2	10月1日追肥終了(慣行)	0	0	0	0	0	0	0

追肥はNPKともに3kg/10a(BB48使用)を8月15日より10月1日までは全区共通  
月2回施肥(1日、15日施肥)10月1日以降は、試験区の日まで追肥



【試験結果】

表1 春芽収量(可販Sサイズ以上)

年度	区名	2月		3月		4月		総まとめ	
		kg/10a	指数	kg/10a	指数	kg/10a	指数	kg/10a	指数
2009年	① 試験区	123	108	698	110	114	114	935	111
	② 慣行区	113	100	632	100	100	100	846	100
2010年	① 試験区	—	—	323	106	313	116	636	111
	② 慣行区	—	—	304	100	270	100	574	100

表2 全刈り時の地上部茎葉重量(2010年度)

No	区名	kg/区	指数
1	試験区	8.21	110
2	慣行区	7.49	100

H23年1月19日全刈り時調査(試験区全量 4連)  
5月末に立茎後、地上から140cm位置で摘心。

表3 保温前土壌の無機態窒素含量(mg/100g)

No	試験区名	2010年1月	2011年1月
1	12月31日追肥終了(試験区)	35.0	28.7
2	10月1日追肥終了(慣行区)	6.9	2.7

【概要】

10月15日～12月31日に2週間に1回の追肥で、全刈り時の地上部茎葉重量、保温前の無機態窒素含有量が増加しました。(表2、3)結果として、春芽が約10%増収しています。(表1)

【成果情報名】半促成長期どりアスパラガスの被覆尿素肥料による秋期追肥の省力化（2011年）

長崎県農林技術開発センター・環境研究部門・土壌肥料研究室

No	試験区名	追肥日および施肥量						合計
		10月15日	11月1日	11月15日	12月1日	12月15日	12月31日	
1	追肥分施	3	3	3	3	3	3	18
2	LP30	18						18
3	R25	18						18

注1) 追肥はNのみ 1区: 硫安、2区: LP30(リニア)、3区: セラコート R25(リニア)

表2 追肥形態の違いと春芽収量の関係

区名	2月		3月		4月		総収量	
	kg/10a	指数	kg/10a	指数	kg/10a	指数	kg/10a	指数
1. 追肥分施	7	100	477	100	541	100	1,026	100
2. LP30	0	0	514	108	656	121	1,170	114
3. R25	2	29	562	118	735	136	1,299	127

注1) 総収量の有意差無し(Tukey)

【概要】

10月中旬に25～30日タイプの被覆尿素肥料1回の追肥で12月末まで15日おきに6回分施した場合と同等の収量となり、緩効性肥料の利用で施肥労力を軽減することができる。



## (4) その他の管理

### ①収穫終了後のかん水の継続

アスパラガスにとってかん水が重要なのは収穫終了後も同様です。収穫終了後も畝内部まで適度に湿った状態を維持し、ハウス内が乾燥しないようにかん水を行いましょう。

また、追肥の肥効を高め、養分吸収を促すためにも定期的なかん水が重要となります。

(目安)

収穫終了後～11月：3～4日に1回

12月：1週間に1回

※圃場排水性によって適切な間隔は異なるので、こまめに圃場に行って畝内部の湿り具合の確認を行うようにしてください。

### ②収穫終了後の萌芽の除去

収穫終了後は貯蔵養分を消耗させないため、萌芽がしなくなるまで出てきた芽は速やかに除去するようにしましょう。

## 【農薬適用拡大情報】 トマトキバガについて

中南米を原産とする外来害虫「トマトキバガ」が日本国内では2021年10月熊本の被害を皮切りに、現在まで12県で発生が報告されています。長崎県では2022年4月5日に発生が確認されましたが、現時点では甚大な被害拡大とはなっていません。しかしながら今後も発生動向を見極め、適正な防除を行っていくことが重要になります。

国内への侵入初期は登録薬剤がなく、緊急的な防除対応を行っていましたが、2023年6～7月に複数の農薬でトマトキバガに対して適用拡大が行われておりますので、暦の検討の参考にいただければと思います。(別紙適用拡大情報を参照)

### 【寄主植物】

タバコ、トマト、ナス、バレイショなどのナス科植物。また、インゲンマメも確認されている。

### 【トマトキバガ対策】

#### ①ハウス内への侵入防止対策

- ・ハウスのサイド開口部や谷 換気部を目合い1mm以下の防虫ネットで被覆する。
- ・出入口を閉めて作業する。

#### ②発生が認められた場合

- ・被害葉、被害果を適切に処分する。
- ・薬剤防除を行う。



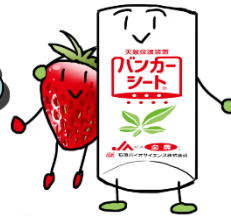
(画像)  
トマトキバガ

成虫

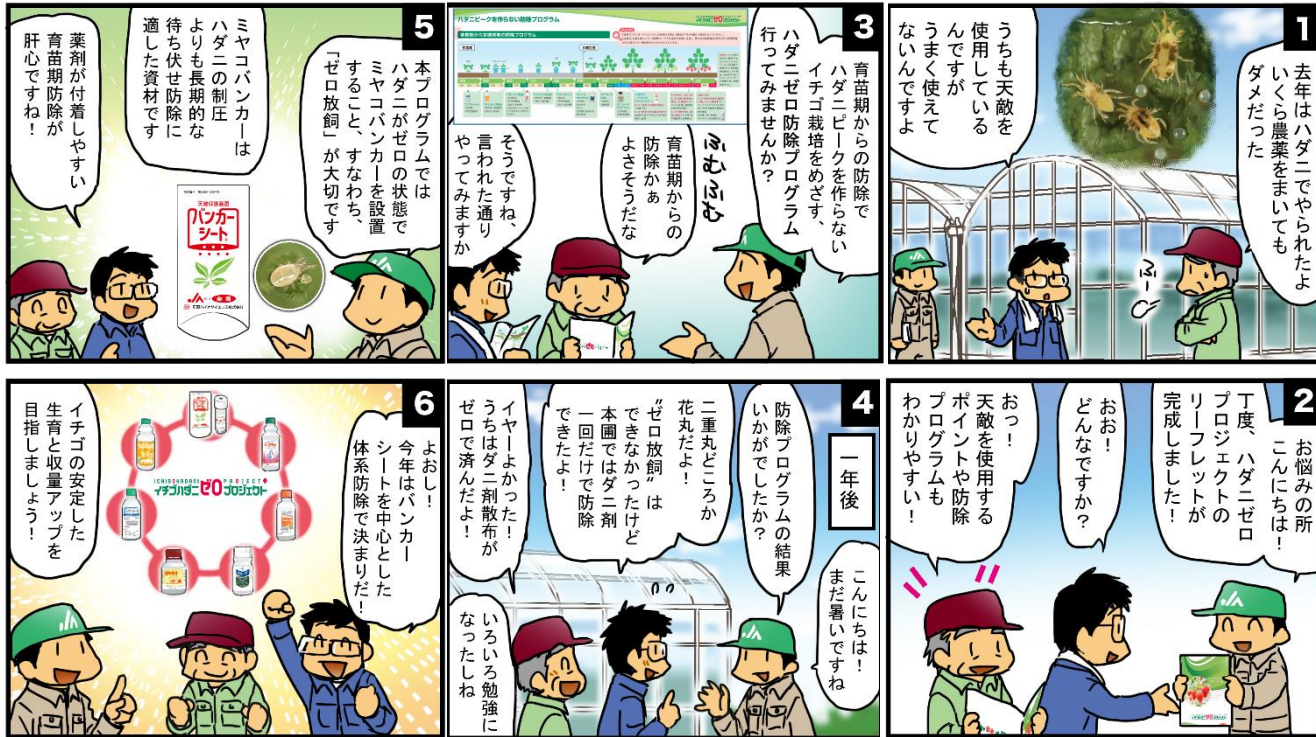


幼虫

(緑～桃色。細い黒色横帯が特徴)



# リーフレット完成! ☆



詳細はリーフレットをご確認ください。

\*引用：長崎県農林技術開発センター 試験研究成果情報より抜粋（平成21、23、24年）

\*10月号に記載されている内容はJA全農ながさきのホームページに掲載されています。

JA全農ながさきホームページURL：<http://www.ns.zenoh.or.jp>